

『生き物は友だち』の実践

札幌市立元町小学校 渡辺 一生

◆単元のポイント

○生き物とお話（会話）をしてかかわる

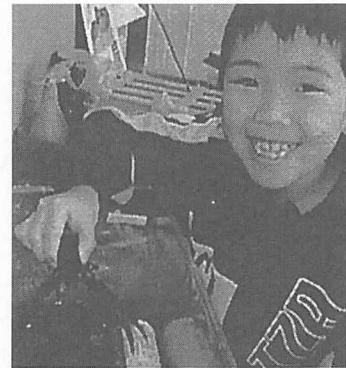
この単元では、生き物を単にお世話するのではなく、お話（会話）をしてかかわっていくようにしています。会話をすることにより、生き物と自分がより近い立場になり、深い意味で生き物と仲良くなれます。また、発達段階からも、生き物とふれあうには適した方法です。

○生き物ホームステイ

教室で生き物とふれあうといっても、家庭などから集まる生き物の種類は少ない。そこでこの単元では、校内の他の教室に探検に行き、そこで見つけた生き物をホームステイさせてもらう活動を取り入れています。

○異学年とのかかわり

ホームステイをお願いされた学級は、喜んで預けてくれる所と心配して様々な所にわかれます。前者ははりきって飼育の仕方を教えてくれ、後者は実際に用心深く注意事項を知らせてくれます。1年生にとっては、どちらも新鮮な情報であり、同時に大切な預かりものだという意識につながっていきます。また、何か疑問が生まれた時に、その学級に積極的に聞きに行くことになります。



◆単元の目標

○仲良くなりたい生き物を持ってきたり、借りたりして、お話やお世話をするなど、積極的にかかわろうとする。 (関心・意欲・態度)

○生き物とお話したことを発表したり、カードに書いたりする。また、新しい生き物と出会った時に、それまでお世話した生き物とのかかわりを生かして活動する。 (思考・表現)

○生き物とのふれあいを通して、相手の立場になって考えることの大切さに気付き、友だちなどまわりの人にも思いやりをもって接しようとする。 (気付き)

◆単元の構想（15時間扱い）

いろいろな生き物と友達になろう

- ・教室に生き物コーナーを作ろう
- ・生き物コーナーの生き物とお話ししよう
- ・他の教室にいる生き物をホームステイさせよう

他の生き物とも仲良くなりたいな

円山動物園に行こう

- ・お話ししてみたい動物を決めよう
- ・お話したいことを考えよう
- ・動物園へレッツゴー
- ・動物園のことを発表しよう

動物ともっと仲良くなりたいな

生き物は友達

- ・学校のうさぎをホームステイさせよう
- ・うさぎとお話しして喜んでくれることを考えよう
- ・これからもいろいろな生き物と仲良くなろう

＜留意点＞

- ・生き物のお世話よりも、会話を重視する。
- ・お話カードを用意し、生き物と話したことを書いて、発表・掲示できるようにする。
- ・生き物を貸してくれた学級、学年と積極的に交流する。

- ・子供の思いを生かしグループで計画的に園内を探検させる。
- ・ペーパーサートなどいろいろな方法で表現できるようにする。
- ・動物にさわれなかつた不満足感を表出させる。

- ・空き教室などで数日うさぎとふれあわせる。
- ・うさぎの立場になって会話することを意識させる。
- ・日常の生き物へ意識を戻させる。

◆実践するにあたつて

この単元の特徴でもあるホームステイを円滑に行うためには、普段から異学年との交流をしておく必要があります。1年生なので、お世話の6年生とのふれあいや学校探検などを積極的に行い、常に異学年と接することが自然に行えるようにしておきます。